

オプトエレクトロニクス製造設備及び重要な原材料産業の発展

日系企業であるULVACグループの優貝克科技(ULVAC Taiwan Manufacturing)と超淨(Ultra Clean Precision Technology)、日系企業智索(Intelligent Research (Chisso))、台湾大福(Daifuku)など、国際的に知名度の高いメーカーの誘致に成功した。日系企業ULVAC会社は2004年LCD生産設備製造メーカーとして売り上げ高世界第3位のメーカーである。優貝克科技(ULVAC Taiwan Manufacturing)と超淨(Ultra Clean Precision Technology)は2005年12月29日から正式に園区内工場建設を始めており、本社日本ULVACグループからオプトエレクトロニクスと半導体膜鍍金設備技術、液晶滴下工法(ODF)設備技術を導入している。台湾大福(Daifuku)は世界的に自動化転送設備を率いているメーカーであり、園区内の工場は竣工間近である。国際的に知名度の高い設備メーカーを園区内に招致できたことによって、国内製造行程設備メーカーや精密機械メーカーの国際メーカーとの協力機会の増加につながる事が期待される。これはTFT面板設備国産率向上後押しに対する大きな原動力となろう。

2005年12月5日から工場建設に着手した日系智索会社(Intelligent Research (Chisso))は、液晶製品の重要原材料において重要な地位を担う会社である。他のTFT面板メーカーに重要原材料を提供し、生産コストとリスクの効果的な引き下げに影響を与え、国際競争力の増加に貢献することが期待される。



優貝克科技(ULVAC Taiwan Manufacturing)、超淨(Ultra Clean Precision Technology)起工式典(12月29日)



2005年南科小学校体能成果展示会

南科国際実験高等学校成立への取り組み

園区内に国際化された教育環境を作り上げ、より多くの人材や投資を呼び寄せるために、園区内県立南科中学校、南科小学校は国立南科国際実験高等学校に制度変更し、バイリンガル部門と高校部門とを増設した。2005年1月より2度に亘り計画草案を提出して教育部(文部科学省に当たる)と数度の協議を行った後、2005年7月8日第3回学校設置計画草案を国科会を通じて教育部に許可申請を提出した。行政院は2005年9月28日書面を以て早急に推進するよう促した。2006年2月9日教育部において「国立南科国際実験高等学校」兼「国立高科国際実験高等学校」学校設置計画の申請が原則的に許可され、学校設置に向けた活動が正式に動き始めている国立南科国際実験高等学校は、2006年8月1日に完成・成立する予定である。



健康生活館委託運営契約式典(12月21日)

健康生活館及びコミュニティーセンターの企業誘致

好評を博した南科のpark17商業スペースに続き、より優れた生活環境を従業員に提供する目的で健康生活館とコミュニティーセンターを建築を行った。民間企業公共建築参与促進法(「促参法」と略称)をもとに、計画評価段階から招致活動を併せて行った結果、民間企業の参加と経営誘致に成功し、行政院公共工程委員会から奨励を受けるに至った。

2005年11月21日、健康生活館最優秀誘致商社として立徳ホテル事業株式会社を選出。12月21日に契約が正式に調印され、運営は2007年7月開始を予定している。工業園区としてははじめての「促参法」に基づいた民間委託経営例となる。契約期間中は、政府に対し3,616万円余の財政収入をもたらすと同時に、14億円もの運営管理費の節約が見込まれる。また、コミュニティーセンターの経営管理の責任者としては、2005年12月27日に華円管理顧問株式会社を選出された。2006年2月16日正式に契約を交わしたことで、全工業園区中に初の全体的なコミュニティー運営理念をもたらす施設となる。これにより契約期間中は、政府に対し3,616万円余の財政収入と4億円の運営管理費用の節約が見込まれる。